

平成30年度 第1回宇都宮市社会福祉審議会障がい者福祉専門分科会 会議録

■日時 平成31年3月15日（金）午後2時15分～3時20分

■場所 宇都宮市総合福祉センター 10階 大会議室

■出席者

1 委員

佐々木委員，影山委員，鈴木委員，興野委員，渡辺委員，中澤委員，
麦倉分科会会長，池本委員，清水委員（順不同）

※欠席 小林委員，齋藤委員

2 事務局

障がい福祉課：課長，課長補佐，各係長，担当者

3 傍聴者

0名

■会議経過

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 「第5次宇都宮市障がい者福祉プラン」・「第5期宇都宮市障がい福祉サービス計画・第1期宇都宮市障がい児福祉サービス計画」の取組状況について

委員

サービス計画における平成30年度の目標値の進捗状況について、「入所施設から地域生活への移行者数」がA評価になれなかった要因は何か。国の目標値が高いのか。

事務局

地域移行者数について，国の目標値を踏まえつつ，本市における入所者の重度化，高齢化，入所期間の長期化を考慮し，目標値を決定している経緯があり，なかなか目標値に届かない現状があるため。

委員

どうして地域移行が進まないのか。原因は。

事務局

当事者の親も高齢が進んでいて在宅に戻るのが厳しい。グループホームへの移行についても難しい場合があり，更に分析をしていく必要がある。

委員

入所施設に精神障がいは含まれているのか。

事務局

(精神障がい)の病院は、栃木県において目標管理を行っている。

委員

入所施設の数が不足、定員も決まらず、入所できない人がいる。国の流れとしてもその方向である。

委員

家族と生活するのが望ましいが、グループホームが充足されていない。今後は、施設数だけでなく、職員の体制が整っている重度障がい者用のグループホームの必要性がでてくる。誰も入りたくて入っているわけではない。

委員

住みたいところに住むのが大前提である。ほとんどが親と一緒に暮らしており、その親が亡くなったら暮らせなくなる。親の介護力を、ホームヘルプ等で充実させることも重要。グループホームでの介護力でどれ程手厚いことができるのか。入所施設の場合、マンツーマンの利用者も多くいる。その利用者がグループホームで住むのは難しい。

委員

障がいでは、家族介護が行われているのか。高齢ではヘルパーが入るのが通常であるが、障がいでは。

事務局

障がいもヘルパーは入っている。

委員

重度障がいがあると入所施設やグループホームが空くのを待っている状態である。

委員

精神科病院へ30年入院していた人が、退院してアパートで暮らしたところ、体調が悪くなってしまい、元の場所が良いと言う人もいた。

委員

精神科病院の敷地内にグループホームをつくっているところもある。北欧でコロニーを解体しようとした時、反対したのは親と職員であったが、その職員をグループホームの世話人にしたため、きめ細やかな支援ができた。日本では、軽度の障がい者が働きながらグループホームに住んでいるという実態がある。グループホームが、重度の障がい者の受け皿になり得ないのが現状である。

委員

この会議は年1回開催なのか。

事務局

計画の策定期間などでなければ、年1回程度開催している。

委員

地域包括システムは高齢者専門だという話であるが、きちんと高齢福祉と連携を取る必要があるのではないか。

事務局

連携を取って進めていきたい。

委員

災害時要援護者支援事業の推進がA評価になっているのはなぜか。

委員

地区における障がい者の人数がわかれば、活動しやすくなる。そこが見えない部分でもある。

委員

台帳共有を行った地区数が目標値になっている。共有を行った地区数はそれほど重要ではない。

委員

プライバシーなどを理由に登録したがない人もいる。無いよりはいいが、横につながっていかない。

事務局

登録を希望されない人もいるのは事実。引き続き、周知をしていきたい。

委員

市や歯科医師会のホームページに、歯科の訪問診療を掲載している。歯科医師会は医療で携わっていくことができる。

(2) 障がい者福祉専門分科会審査部会の活動状況等について

意見無し

4 その他

(1) 平成30年度の理解促進・差別解消に係る取組について

委員

ヘルプマーク・ヘルプカードについては、多くの人知らないのではないか。周知率がわかるようなものはあるのか。

事務局

県のアンケートなどでも周知が進んでいない現状はあるが、引き続き、周知に努めていきたい。

委員

インスタグラムを開始したとのことだが、フォローはされているのか。目的をもってやるべき。

委員

ヘルプマークは東京がスタートで、栃木県が2年前に作成している。ヘルプカードもヘルプマークも、もっと普及をさせていかないと。

事務局

引き続き、普及啓発に努めていきたい。

(2) 「就職ガイダンス」について

意見無し

5 閉会